第 10 回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会 議事録

［日　時］ 平成 23 年 10 月 14 日（金）　13:30～16：45
［会　場］ トラストシティ カンファレンス・丸の内
［出席者］

| | |
|---|---|
| 専門委員 | ６名 |
| 長野広域連合 | ６名 |
| ㈶日本環境衛生センター | １名 |
| 八千代エンジニヤリング㈱ | ３名（前半） |
| ㈱エイト日本技術開発 | ３名（後半） |

委員会協議概要

**（１） 第９回委員会議事録の承認**

議事録について承認された。

**（２） Ｂ焼却施設の基本計画作成について**

事務局から、環境影響評価に必要な施設諸元について前回の会議で指摘があった事項について説明し了承を得た。処理方式の選考、震災等に対する考え方について説明し協議を行った。

＜委員意見等＞

・資料中の評価項目に沿って各メーカーの提出資料を評価した場合、処理方式間の差よりも各メーカー間の差が影響してくる可能性があるので考慮したほうが良い。
・地域性に配慮した評価項目は、方式選定時ではなく事業者選定時に行う方が良い。ただし、方式選定の中で順位がついてしまい事業者選定に参加できない場合、地域性の評価ができないということがある。
・燃料や薬品は安定供給されるのが前提であったが、非常時を想定した適正なストック量を考慮する必要がある。
・非常用発電機による施設運転の立ち上げ、定期点検の遵守等についても検討を行う方が良い。

**（３） Ａ焼却施設の整備計画等作成、事業手法等調査検討**

事務局から、事業手法調査結果について説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

他案件において、ごみ量については、固定費、変動費の複合で対応しているが、ごみ質の変動については、設定が難しく対応しきれていない面がある。本案件では極力は配慮して進めてもらいたい。

**イ　自治体向けの事例調査について**

事務局から、事業手法調査結果について説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

・長期包括運営で運転専業系の業者と契約しているのはどのような事情があるのか調査した方が良い。
・計画時及び落札時の VFM にについて調査した方が良い。
・収入帰属に関して、熱供給に関することを追加した方が良い。

**ウ　基本システム等について**

事務局から、基本システム等について説明し、協議を行った。

＜委員意見等＞

・検討中の処理フローは、住民説明等これまでの経過、経緯が最終処量を極力最小化する方向で考えている事は理解するが、電気等のエネルギー利用の点や設備の面から見直すことも必要。
・破砕残さを不燃・可燃とともに焼却処理する計画であるが、溶融処理の前処理について必要以上の前処理はせず、なるべく簡素にした方が良い。最終処分できるものは最終処分した方が良い。
・低空気比高温燃焼を実施するということになっているが、その技術がメーカーによって差があり、排ガス再循環を含め、本当にきちんとした設計ができるのか、実績を持っているのかをよく吟味する必要がある。
・レアメタル回収のために小型家電の分別回収が進む可能性がある。組成が変わってくる可能性があるので配慮が必要。
・二段バグフィルターは要求水準書（発注仕様書）へは明記せず、排ガス基準値、最終処分量の低減、エネルギー回収量の複合で評価するとすれば、プラントメーカー側で一番良いバランスのものを提案してくるのではないか。